

協働的な学びをデザインする

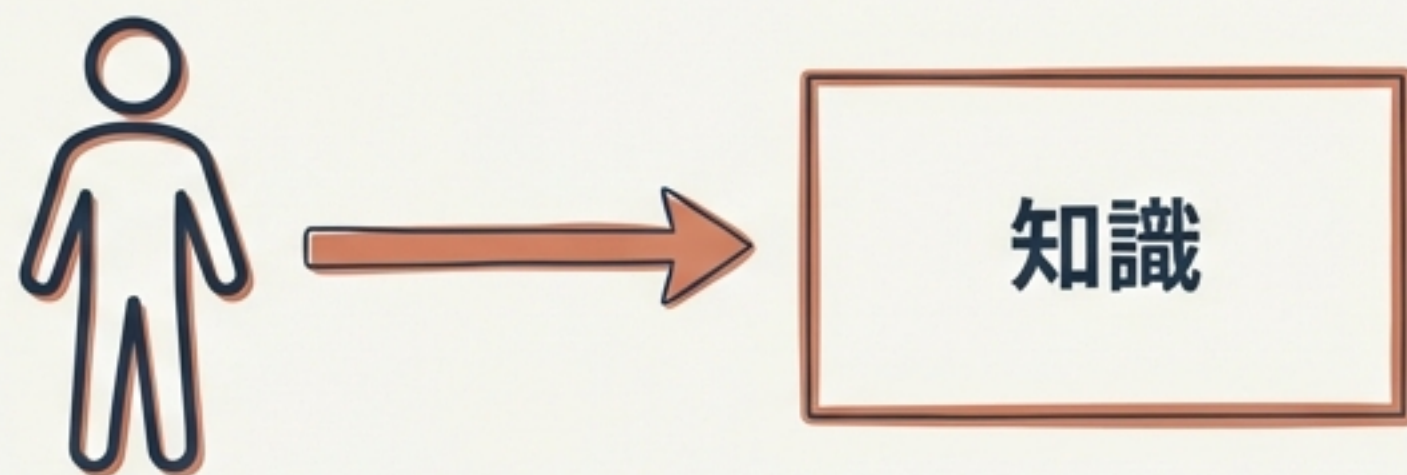
知識の社会的構成と実践的メソッド



なぜ今、ただの「学習」ではなく「協働」が必要なのか？

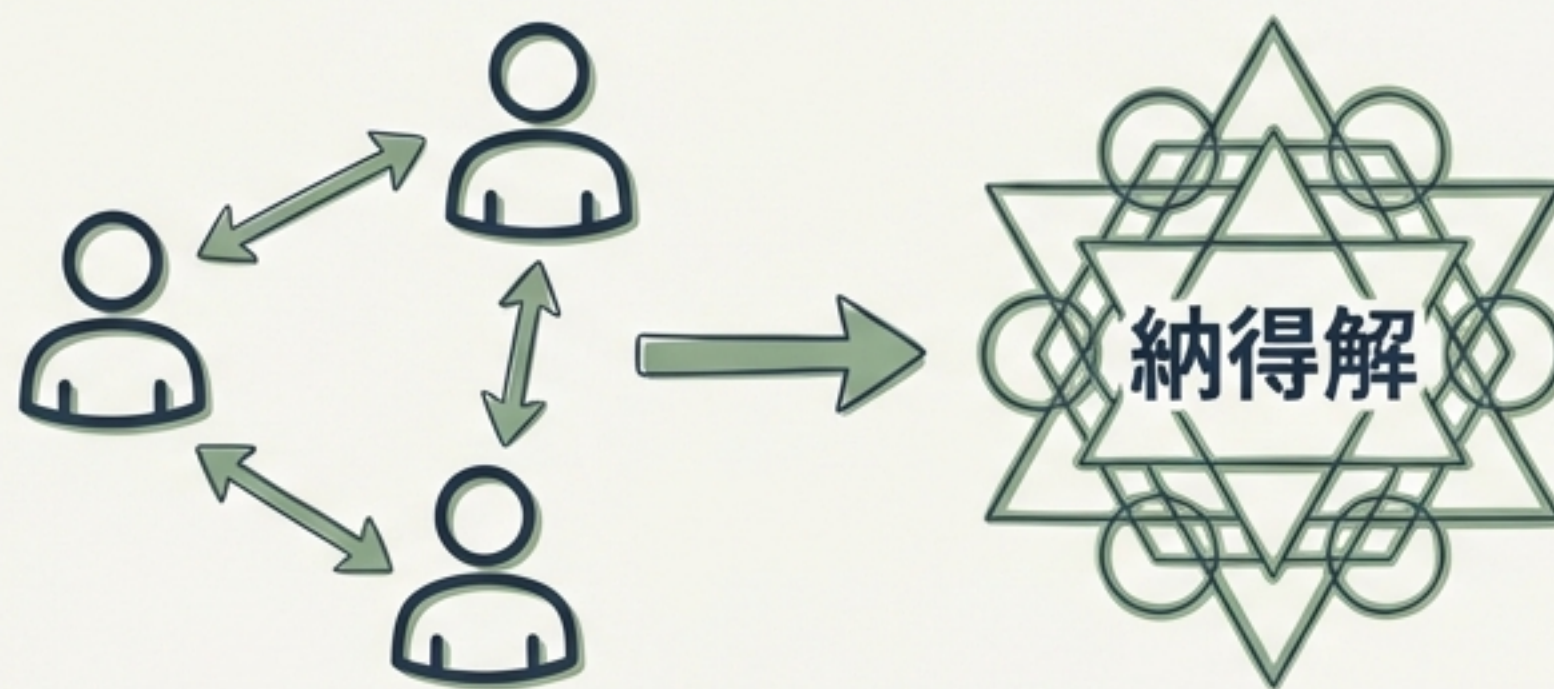
社会的背景

急激な社会変化により、複雑な問題解決能力と新しいアイデアの創造が求められています。これらは個人人の学習だけでは磨くことが困難です。



教育的要請

中央教育審議会（平成24年8月）は、21世紀を生き抜くための力として、協働を通じた「思考力・判断力・表現力」の育成を重視しています。



協働学習とは「他者がいないと起きない学び」



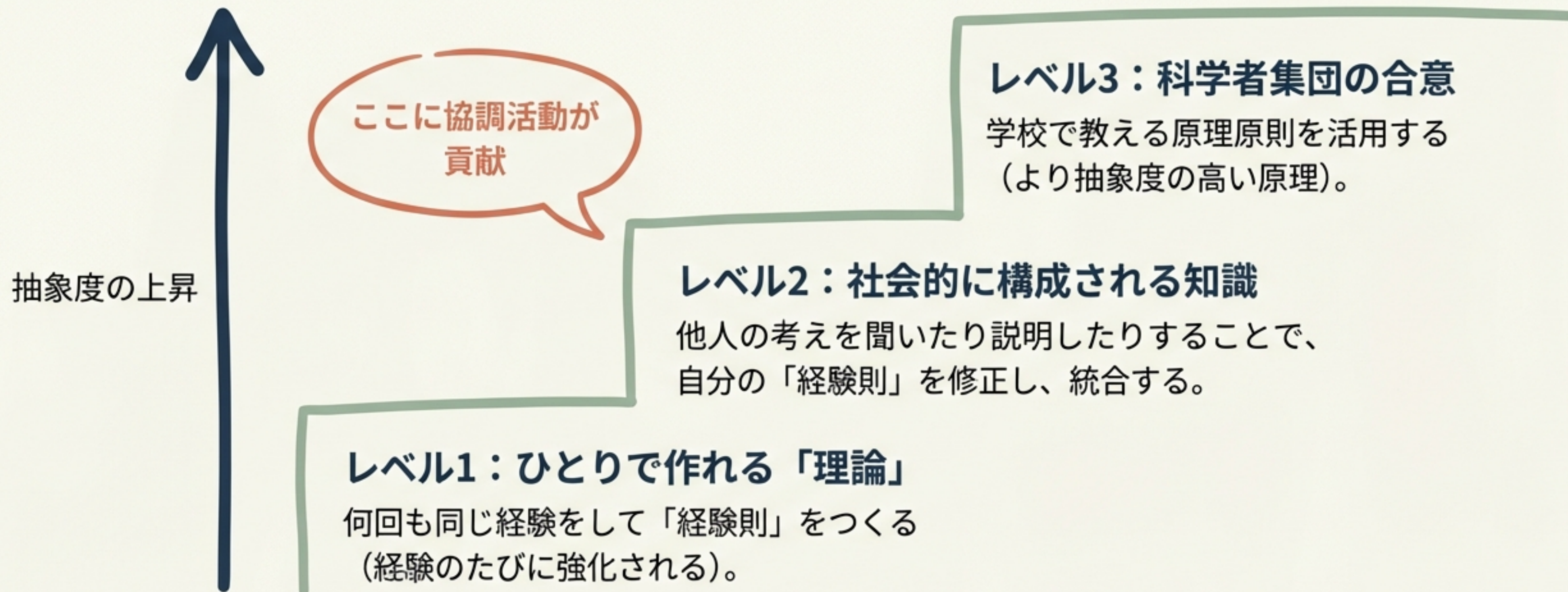
定義：文化や組織の異なる他者と、一つの目標に向けてパートナーとして働くプロセス

- ✓ Check 1: どうしても他人がいないと起きない活動であること
- ✓ Check 2: 他人がいることで、一人で解くより答えの質が上がること

ゴール：柔軟に問題を解決できる「使えるスキル」の育成

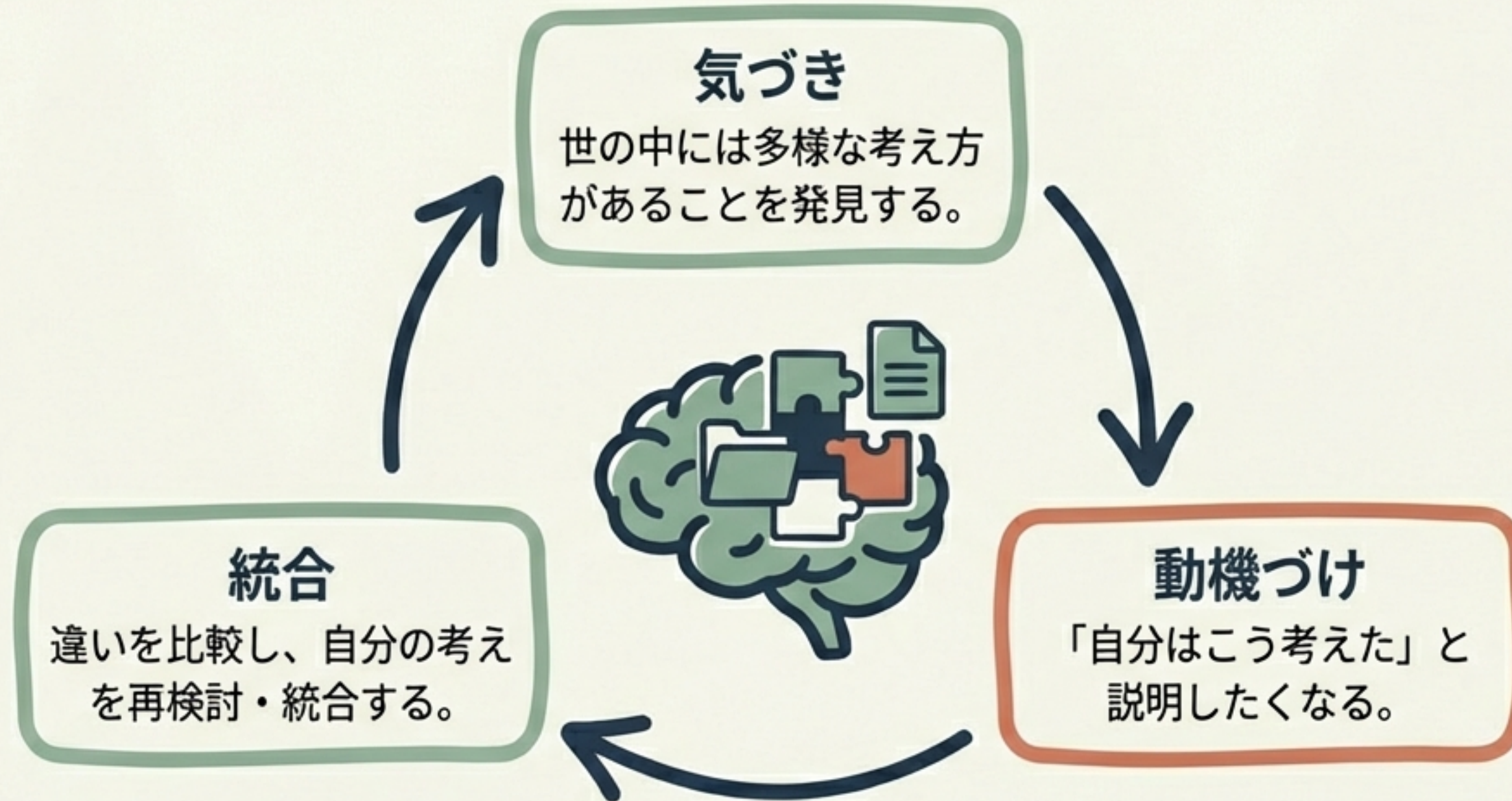
人は社会的な関わりの中でこそ、賢くなる

知識の社会的構成モデル (Miyake, 2011)



「教え合い」が知識を定着させるメカニズム

互恵的教授法 (Reciprocal Teaching)



能動的な学習内容は、時間が経っても定着する (Bransford, 1999; Miyake & Shiromizu, 2003)

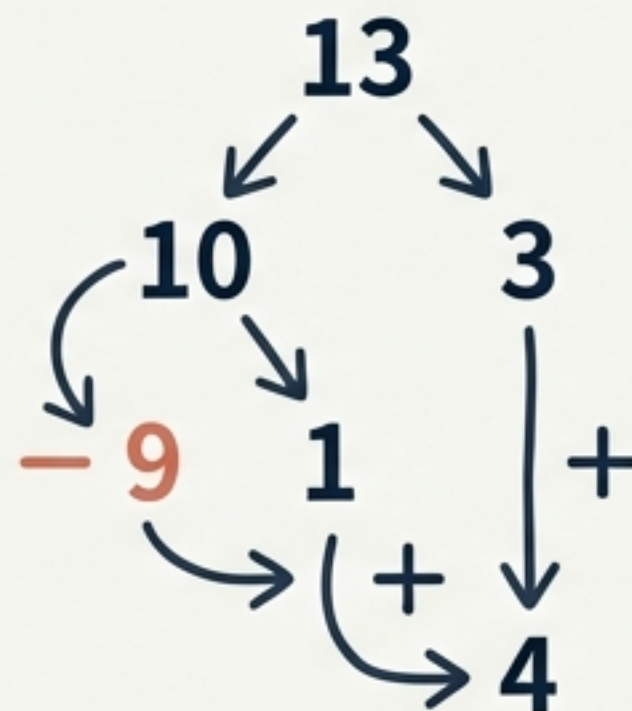
「13 - 9」の答えは一つでも、思考のプロセスは無限にある

描画法

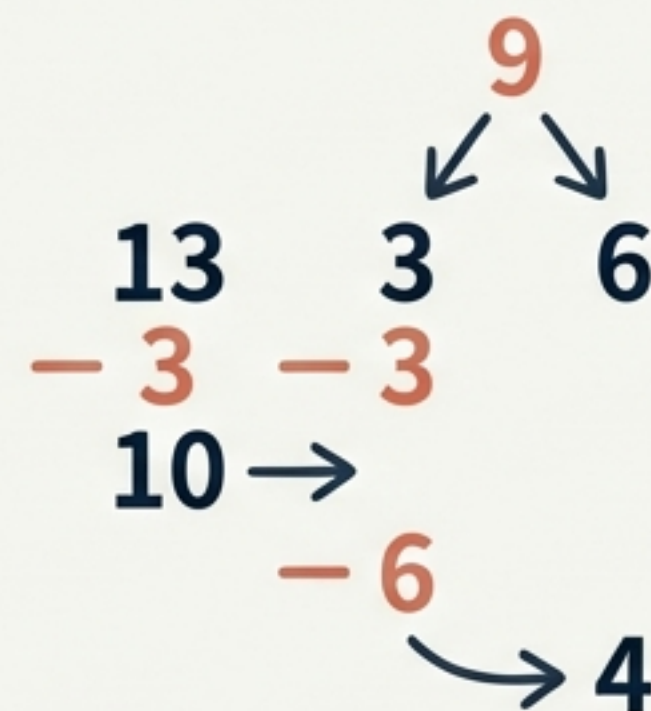


4

減加法 (10の分解)



減々法 (9の分解)



「正解したから理解している」とは限らない。
学習者はそれぞれ全く異なる論理で動いている。

多様性は「混乱」ではなく「学習の資源」

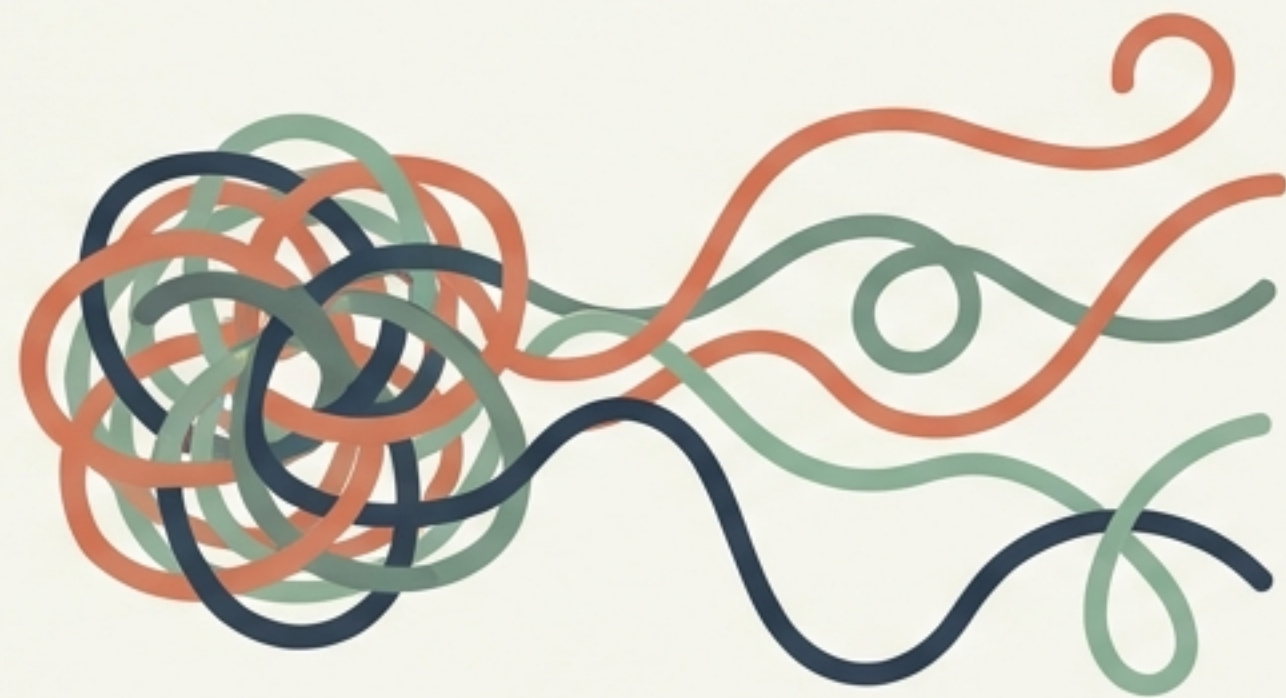
これまでの誤解

「多様な意見は生徒を混乱させる」



協働学習の視点

「個人の多様性を認めることが、
全員の学びを保障する」



- 多様性の制限 = 社会的構成（レベル2）の機会損失
- 違いの認識 = 個別学習の出発点

協働学習をデザインするための具体的アプローチ

ワークショップ
(Workshop)
創造的問題解決



アイデアの発散と共有のための
トレーニング手法。

ジグソー法
(Jigsaw Method)
知識の統合と構築



学習者が知識を統合し、原理を
導き出すための授業手法。

創造的問題解決：アイデアを広げるワークショップ手法



アイスブレイク

緊張をほぐし、活動を円滑にするための導入活動。



ブレインストーミング

質より量を重視。批判厳禁で、独創的なアイデアを出し合う。



KJ法

情報を分類・構造化し、全体像を視覚的に把握する。

成果の共有と行動化：アイデアを形にする手法



ポスターセッション (Poster Session)

全員が発表し、全員が主体的に聞きに行く。ブースを回りながら質問や感想を述べる。



プランニング (Planning)

具体的な「アクションプラン」を作成する。教室に掲示することで、実践の場を作り出す。

知識構成型ジグソー法：学習者が知識を「統合」する

従来の授業



教員が知識のつながりを全て説明する。

Shift to
Agency



ジグソー法



教員は「部品」を手渡すのみ。
学習者自身がそれを統合して答えを出す。

外界に働きかけながら学ぶ力（エージェンシー）を引き出す。

3つのステップで進む「知識の統合」プロセス

1. エキスパート活動

特定の「部品（視点）」について深く話し合う。



ある視点
(Group A)



違う視点
(Group B)



もうちょっと違う視点
(Group C)

2. ジグソー活動

持ち寄った知識を組み合わせ、新しい課題を解く。



混合グループ 1



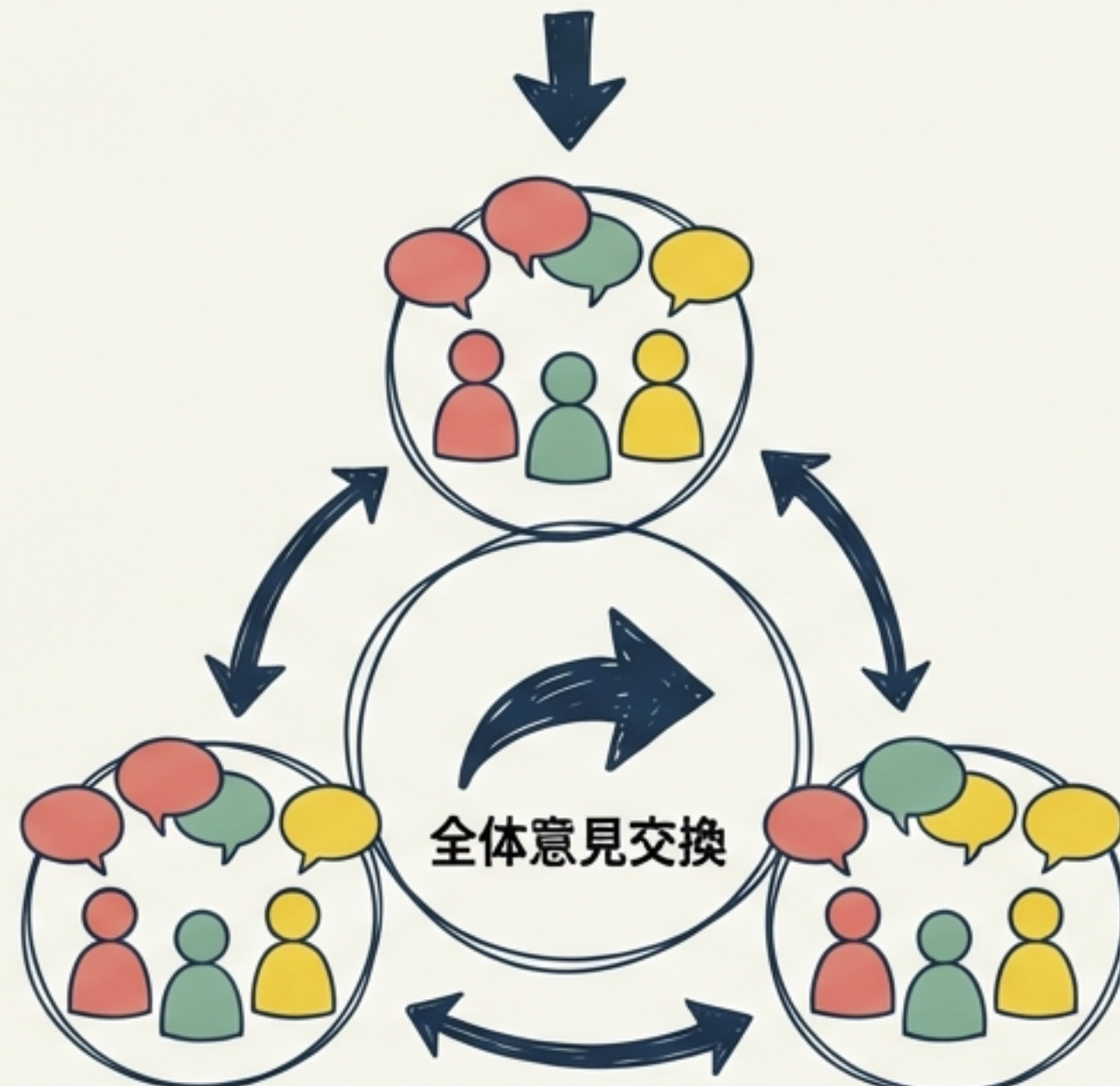
混合グループ 2



混合グループ 3

3. クロストーク

全体で答えを交換し、最も納得のいく表現を見つける。



→ 知識の活用

クロストーク：納得できる「自分の言葉」を見つける



ただの発表会ではありません。

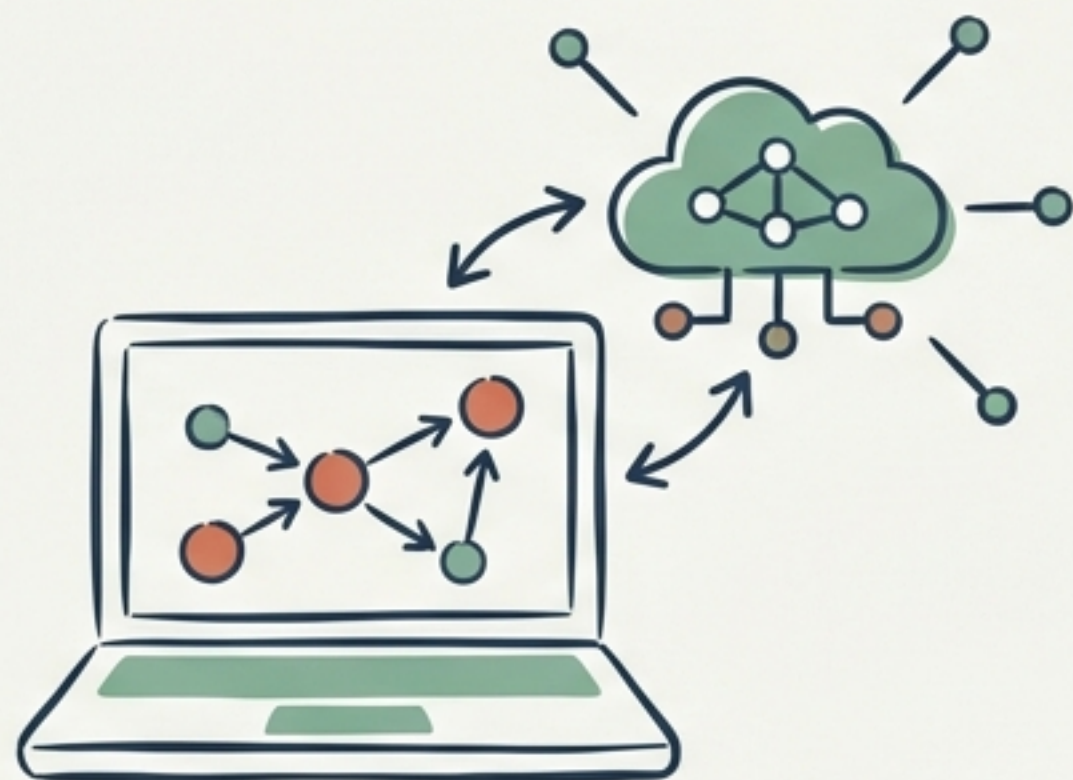
他者の「うまい説明」や「視点」を取り入れ、自分の理解をアップデートする場です。

ゴール：特定の答えから、応用範囲の広い「活用できる知識」への昇華

教室の外へ広がる協働学習とリソース

遠隔協働学習

ICTを活用し、思考プロセスを可視化。化。遠隔地や第三者との共有により、知識の比較検討を促進します。



リソース・教材

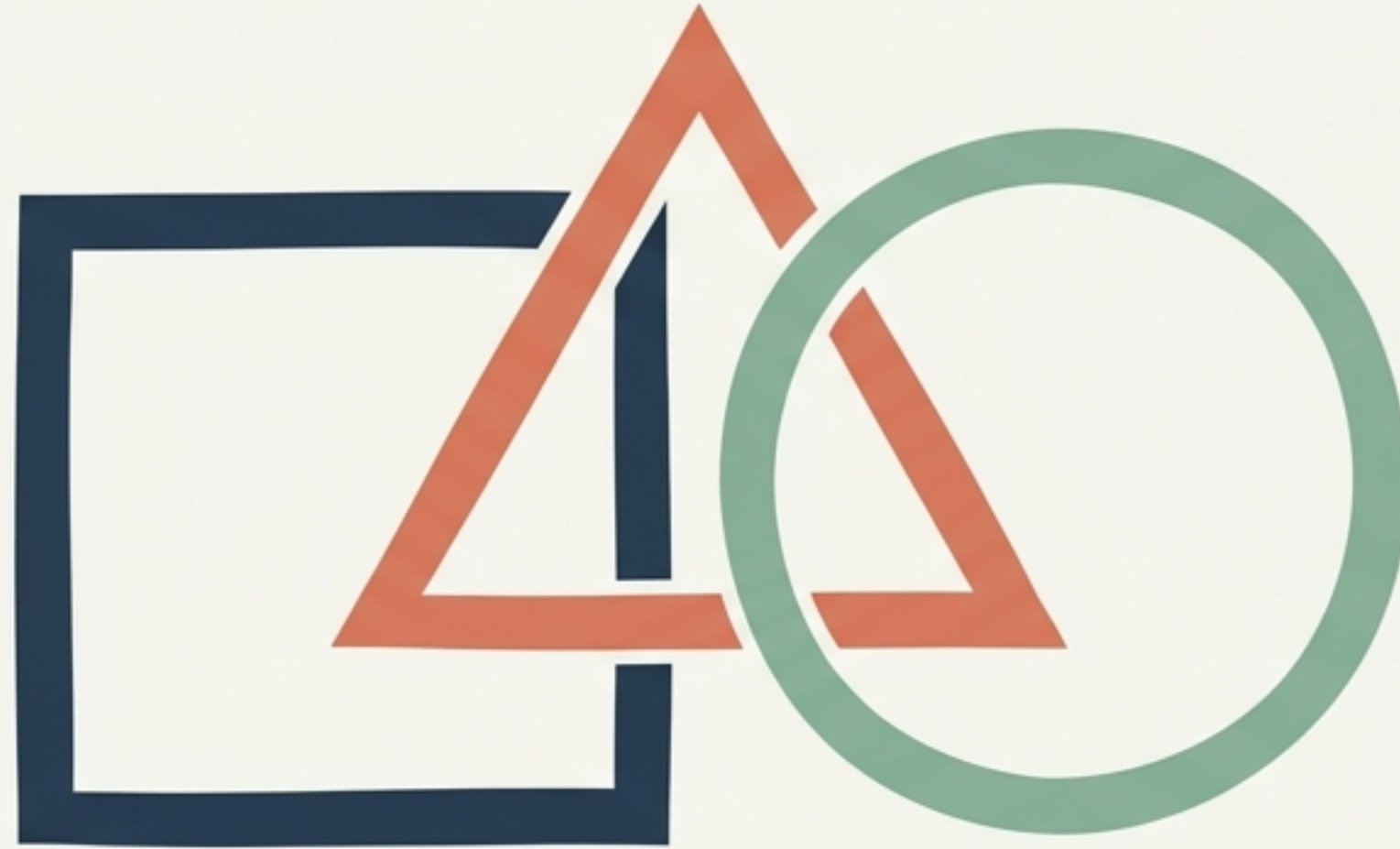
東京大学 CoREF（大学発教育支援コンソーシアム推進機構）

教科別の指導案やジグソー法教材が公開されています。



CoREF 公式サイト

デザインされた「協働」が、学びの質を変える



- 協働は偶然起きるものではなく、デザインされるものである。
- 多様性を「混乱」ではなく「資源」として活かす。
- 知識の統合プロセスを学習者に委ね、未来を生き抜くスキルを育む。